

第20回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成20年2月

応募者名：埼玉県 県土整備部 道路街路課
川越市 建設部街路課

事業の名称：川越都市計画道路事業
3・4・3号 中央通り線ほか6路線

実施都市名：川 越 市

事業の目的

本路線の周辺地区は、寛永15年及び明治26年の大火以来、防火性の高い重厚な蔵造りの町家を中心としたまちづくりが行われ、現在、歴史的建造物が数多く保存されている。

とりわけ、元町1丁目、2丁目、仲町の各1部、及び幸町全域の約7.8haのエリアは、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

中央通り線は、この地区の中央に位置し、地域の骨格となる幹線道路であるとともに、歴みち事業で整備された街区道路6路線と併せ、観光ルートや地域の生活道路としての役割も有している。

また川越まつり(国重要無形民族文化財指定)のメインストリートにもなっており、この地域にとって最も親しまれている道路でもある。

そこで、人々が安心・安全に通行できることはもとより、この歴史的町並みを活かし、まちの賑わいの創出に貢献する街路づくりを目的としている。

事業概要

この地域では、まちへの愛着心と地域の活性化に対する住民の意識が非常に高いことから、昭和63年には住民自らが、まちづくりの理念「町づくり規範」を定め、町並みの形成に取り組んできている。

整備にあたっては、この「町づくり規範」の主旨を尊重するとともに、住民との連携を図るため、中央通り線の整備検討会を設け、歩行者の安全性、蔵の保全、祭りへ利用、町並みとの調和などの検討を重ねてきた。

その結果、全体道路幅員の中で歩道幅員をできるだけ広くしたり、歩道を石張り舗装とし整備することが決まった。特に使用材料については、検討会だけではなく沿線の125所帯にアンケートを実施し、現場に石見本を配置して色合いやその配色を決定した。また本路線の整備に併せ、地元商店街による街路灯の自主的な付替も実現した。

これらにより、商業活動の活性化や川越まつりの観光客が増加するなど地域全体の魅力の向上につながる街路事業となった。

事業名：川越都市計画道路事業

路線名：3・4・3号 中央通り線
ほか6路線

事業箇所：川越市仲町～川越市元町

事業延長：1,301m(411m)

幅員：4～11m(9～11m)

総事業費：約11.3億円(約1.8億円)

事業年度：平成元年～平成18年度

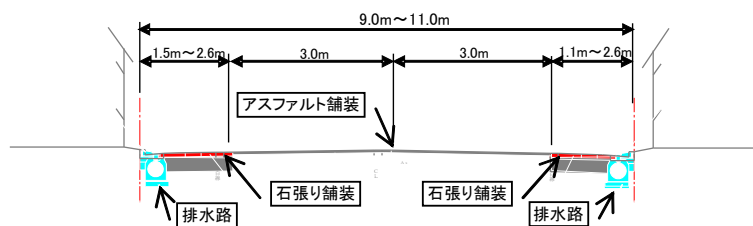
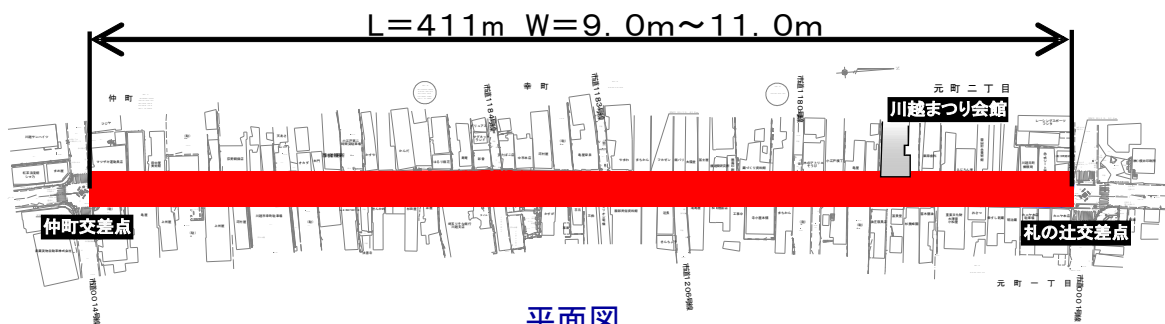


蔵づくりの街並み

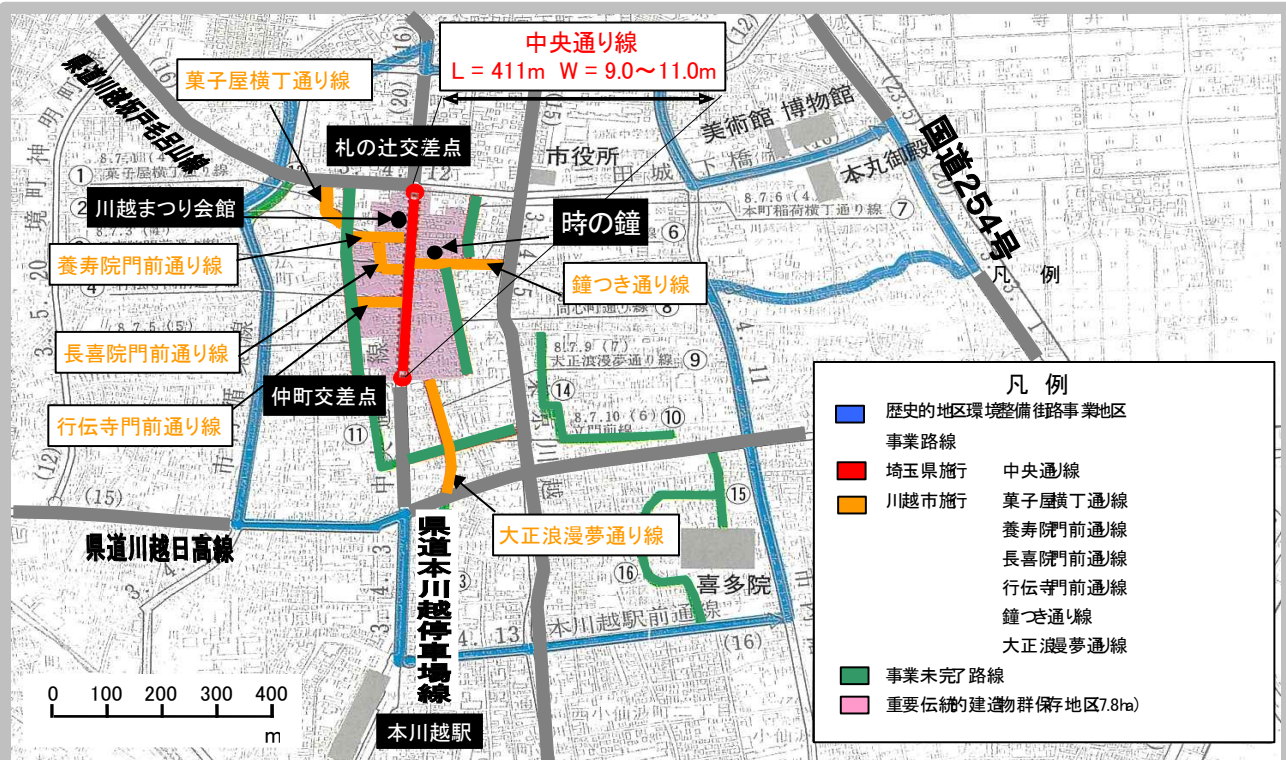
事業位置図



全体図(平面図・横断面図)



中央通り線ほか6路線の整備効果アピール資料



(事業概要)

事業名: 川越都市計画道路事業
 路線名: 3・4・3号 中央通り線ほか6路線
 事業箇所: 川越市仲町 ~ 川越市元町
 事業延長: 1,301m(411m)
 幅員: 4~11m(9~11m)
 総事業費: 約11.3億円(約1.8億円)
 事業期間: 平成元年度から平成18年度

(参考)

伝統行事である川越まつりにおいては、より多くの観光客が訪れ賑わいを見せている。

川越まつり会館利用者数 (年間)

供用前	平成18年	77,878人/年
供用後	平成19年	103,103人/年
増加		25,225人/年

※川越市全体の観光客数 (年間)

昭和63年	2,386,526人/年
平成18年	5,504,000人/年
平成19年	5,981,000人/年

(整備効果)

○歩道の拡幅により歩行者の安全性が高まった。

整備前: 0.4m~2.3m

整備後: 1.1m~2.6m

○川越まつり会館利用者数32%増加



事業前: H18.7



事業後: H19.8

鐘つき通り線 事業前後写真



大正浪漫夢通り線 事業前後写真



菓子屋横丁通り線 事業前後写真



行伝寺門前通り線 事業前後写真



養寿院門前通り線 事業前後写真



長喜院門前通り線 事業前後写真



中央通り線 事業前写真

平成17年7月撮影



平成17年7月撮影



平成17年7月撮影



中央通り線 事業後写真

平成19年8月撮影



平成19年10月撮影

—川越まつりの風景—



平成19年3月撮影

